

祈りの人 ダニエル³

祈りの必要性⑧
ダニエル書 9～10章

ダニエルは80歳になろうとしていました。エレミヤの預言を読んでいる時、イスラエルの捕囚が終わる70年が、もう間近であることを悟ったのです。

私たちがこのような約束を頂いたらどうするでしょうか？ 普通、喜びながら、その日を待ちわびるだけでしょう。しかし、自分の祈りが神様にとって必要だと分かっていたダニエルは、神様の前に断食をすぐに始め、祈り出しました。

時が満ちても、祈りがなければ、神様の御業は自動的に成就されません。神様は期待された、祈りの要請がなければ動かせません。今の時代も同じです。

神様は祈り、神様に期待し、神様の御手を動かす者を捜しておられます。

ダニエルは高齢でしたが、人生の最後をこの祈りにかけ、夕日が沈む前のように燃えて輝きました。次は、私たちが祈り出すのを主は待っておられます。

聖書の学び

I、聖霊による気づき

ダニエルがバビロン来たのはBC606～5年、ユダヤ人がペルシアのキュロス王により解放されたのはBC538年。その間、約67～8年(70年より2、3年早く解放された)

1、ダニエルは何度も読んでいたエレミヤの預言の書を読みました。

- ①エレミヤ書25:11＝ユダ王国の滅亡、バビロンによる70年間の捕囚
- ②エレミヤ書29:10＝70年後にユダの地エルサレムに帰えらせる。

2、あと3年程で、70年経つことを悟ったダニエルは、どのような姿になり、何をしましたか？ (ダニエル書9:1～3)

II、ダニエルの祈り

1、イスラエルの民全体の罪を、自分の事として悔い改めた。

(ダニエル書9:5～14)

- ①神様との契約を破り、罪を犯した (9:5)
- ②預言者の警告を聞かなかった (9:6)
- ③不義から立ち返り、真理を悟れるように祈らなかった。 (9:13～14)

2、神様のあわれみを信じ、神様にすがる信仰（ダニエル書9:15～31）

①そしりを受けている現状（9:15～16） →

②聖霊の回復（9:17） →

③哀れみを請う（9:18） →

④早目の解放を願う（9:19） →

Ⅲ、祈りに応える天上での動き（ダニエル書9:21～10:14）

1、神様はダニエルの悔い改めと罪の赦しの祈りを聞かれ、御使いガブリエルにみことばと幻を伝えさせました。（9:24～27）

みことば：本当の救いについて… 将来のキリストの降臨と、十字架により罪を終わらせること
(9:26)

幻：この後、エルサレムに起きること… 黙示なので、様々な説があり、
(9:24～27) ハッキリとした説明を現在もすることは難しい。

※ダニエルが祈ったこの年、BC538年、ペルシアのキュロス王はユダヤ人の捕囚を解き、ユダヤ人のエルサレム帰還が許された。（エズラ記1章）

2、エルサレムへ帰還が赦されて3年、なかなか実現、進展しない様子にダニエルは、また断食祈祷を始めました。

1)断食祈祷（ダニエル書10:1～4）

2)ひとりの人(受肉前のキリスト) の存在

①声をかけて下さる（ダニエル書10:5～11）

②力づけてくださる（ダニエル書10:19）

3)ダニエルに語られたことば

①ダニエルの祈りは聞かれている（ダニエル書10:12）

②ダニエルが断食祈祷している21日間、主がペルシアの君(サタン)と戦って勝利された
(ダニエル書10:13)

③これから起こること(黙示)をダニエルに悟らせる（ダニエル書10:14）